

## 初回糖尿病教育入院における看護介入効果の検討

6階東病棟

○瀧田 三紀      古川 祐子      久米 美香      森本 文子  
豊田 千佳子      仁井田 恵子

内分泌代謝・腎臓内科学

井上 眞理      高田 浩史      石橋 綾子      寺田 典生

**【目的】** 糖尿病問題領域質問表（PAID）を使用した2週間糖尿病教育入院での看護介入効果を検討した。

**【方法】** 対象は、当院で初回糖尿病教育入院を行った2型糖尿病患者11名（男性6名、女性5名）。入院時、退院時にPAIDを行い、負担感情の変化を検討した。

**【結果】** 退院時PAID総得点が低下した症例は9名であった。低下のなかった2名は入院時のPAIDは60点未満であった。入院時の他者への感情3項目の合計点数の平均は、 $5.3 \pm 3.6$ と低値であった。各項目別の検討では、食事への執着、合併症への不安、脱線時の不安に関しては半数以上の症例で改善が認められなかった。

**【結語】** 短期間の看護介入では、負担感情の軽減ができていない項目があり、今後は、患者個々の負担感情に応じた看護介入の検討及び継続看護の必要があると考えられた。